

北部九州集中豪雨の被災地区で、全校生徒によるボランティア活動



熊本県立 阿蘇中央高等学校

7月に発生した豪雨災害で、阿蘇市内は家屋の浸水や土砂の流入など大きな被害を受けました。被災した生徒や職員が複数いる中「地域や友人の力になりたい。」「ボランティアに行こう。」という声が生徒や先生方の中からあがり、7月17日と19日に学校全体でボランティアセンターと連携して被災地支援活動に取り組みました。

まず、全校生徒が学校で貸し切ったバスに分乗して、割り当てられた被災地に移動しました。窓口は各地区の区長さんで、指示に従って被災された家屋や道路の復旧に汗だく、泥だらけになって活動を行いました。時間は午前10時頃から午後4時頃まででしたが、作業の終わりはなかなか見えず、終了の時間がきても生徒からは「もっと続けたい」という声があがっていました。



排水溝につまった土砂をかきだす生徒



道路にたまった泥を水で洗い流していく様子

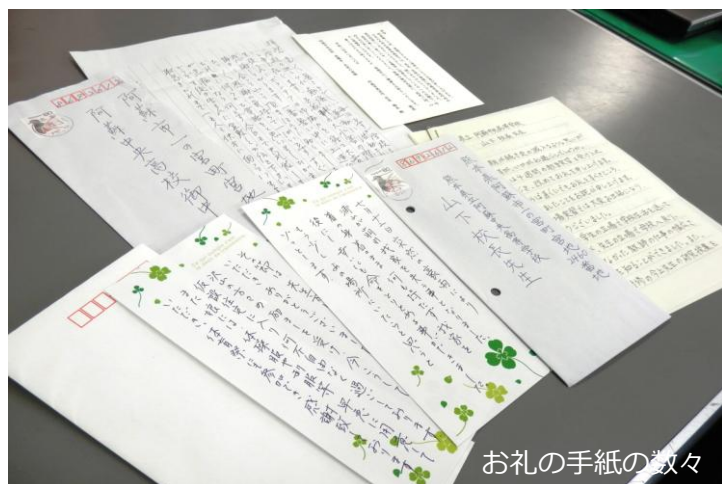
これをきっかけに部活動単位、あるいは個人単位で被災地域へのボランティア活動に多くの本校生が参加しました。

野球部は、夏の選手権予選で快進撃を続ける中、地域復興のために地域に元気をという気持ちを部員が共有し、試合のない日に、繰り返し活動に取り組みました。

ボランティアセンターをとおさずに、被災した友人宅の復旧の手伝いに駆けつけた生徒も相当な数に上りました。

～地域との絆も強く～

これらの生徒たちの行動や姿勢は、地域の方々から深く感謝され、被災者の方々を元気づけるものとなったようです。各地区の区長をはじめ、個人の方からもお礼状もたくさんいただきました。地域との繋がりもこれまでより一層深まり、小中学生への学習支援ボランティアや、農場での体験学習などの増加など、地域と学校連携強化につながってきました。今後も、学校活性化につながることを期待しています。



お礼の手紙の数々